

事務事業評価表 平成24年度

政策 環境と調和する都市の構築
 施策 人と地球にやさしい環境の創出
 基本事業 安全な地域環境の保全

事業名 **有害鳥獣等対策事業**

[0762]

| | | | | | |
|----|--------|--------|------|----------|------|
| 部名 | 生活環境部 | 事業開始年度 | - 年度 | 実施計画事業認定 | 非対象 |
| 課名 | 環境室環境課 | 事業終了年度 | - 年度 | 会計区分 | 一般会計 |

| 事務事業の目的と成果 | |
|--|---|
| <p>対象</p> <p>(誰、何に対して事業を行うのか) 市民生活に一定程度影響のある動物 (アライグマ、アメリカミンク、キツネ、カラス、ドバト) 【平成24年度より市の捕獲許可対象鳥獣及び特定外来生物のうち哺乳類 (キジバト、ドバト、スズメ、カラス、キツネ、ノイヌ、ノネコ、アライグマ、ネズミ、アメリカミンク計10種)】</p> | <p>手段</p> <p>(事務事業の内容、やり方、手段) アライグマ等有害鳥獣の量抑制をしていくために、地域の環境保全会等関係機関と連携により 被害防止対策の検討や有害鳥獣の駆除を実施する。</p> |
| <p>意図</p> <p>(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか) 有害鳥獣の抑制、駆除。</p> | |

| 事業量・コスト指標の推移 | | | | | | |
|-----------------------|--------|-----------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| 区分 | | 単位 | 21年度実績 | 22年度実績 | 23年度実績 | 24年度当初 |
| 対象指標1 | 動物の種類数 | 種類 | 5 | 5 | 5 | 10 |
| 対象指標2 | | | | | | |
| 活動指標1 | ワナかけ日数 | 日 | 5,035 | 3,974 | 5,141 | 4,500 |
| 活動指標2 | | | | | | |
| 成果指標1 | 駆除した数 | 羽・匹 | 396 | 339 | 311 | 400 |
| 成果指標2 | | | | | | |
| 単位コスト指標 | | | | | | |
| 事業費計 (A) | | 千円 | 60 | 60 | 60 | 227 |
| 正職員人件費 (B) | | 千円 | 2,489 | 2,418 | 2,809 | 2,833 |
| | | | | | | |
| 総事業費 (A) + (B) | | 千円 | 2,549 | 2,478 | 2,869 | 3,060 |

| 費用内訳 | |
|------|--------------------|
| 23年度 | 報償費 50千円、原材料費 10千円 |

事業を取り巻く環境変化

| | | | |
|--------|--|-------------|---|
| 事業開始背景 | カラス問題等の野生鳥獣対策を進め、被害の軽減と安心・安全な生活環境の確保を図る。 | 事業を取り巻く環境変化 | 大麻地区には、多数のカラスが集まる「ねぐら」があり、鳴き声や異様さ故に地域住民から苦情が寄せられている。 また、アライグマによる農業被害などが増大しており北海道では基本方針を定め、撲滅のための対策を進めている。 さらに近年ではエゾシカの出没が増加し、その対応に苦慮している。 |
|--------|--|-------------|---|

23年度の実績による事業課の評価（7月時点）

(1)税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？

- 義務的事務事業
- 妥当である
- 妥当性が低い

理由・
根拠は？

カラス問題等の野生鳥獣対策を進め、被害の軽減と安心・安全な生活環境を守ろうとするもので妥当である。

(2)上位の基本事業への貢献度は大きいですか？

- 貢献度大きい
- 貢献度ふつう
- 貢献度小さい
- 基礎的事務事業

理由・
根拠は？

農業被害等の防止及び市民の安心・安全な生活環境を確保に貢献している。

(3)計画どおりに成果はあがっていますか？計画どおりに成果がでていない理由、でていない理由は何ですか？

- あがっている
- どちらかといえばあがっている
- あがらない

理由・
根拠は？

関係機関との連携、協力体制を確保し、有害鳥獣の駆除を実施している。

(4)成果が向上する余地（可能性）は、ありますか？その理由は何ですか？

- 成果向上余地 大
- 成果向上余地 中
- 成果向上余地 小・なし

理由・
根拠は？

関係機関と連携、協力し、継続して有害鳥獣の駆除を実施することにより被害の減少が期待できる。

(5)現状の成果を落とさずにコスト（予算＋所要時間）を削減する新たな方法はありませんか？（受益者負担含む）

- ある
- ない

理由・
根拠は？

法、条例等に基づく防除計画の策定、捕獲許可等の業務である。